

## 八学大女子ラグビー部 太子食品と連携

# 「モナリザ賞」受賞

## 大豆の健康効果研究 高評価

八戸

大豆食品の健康効果に関する研究に、太子食品工業(三戸町)の協力を受けて取り組んでいる八戸学院大学(八戸市)女子ラグビー部が、特定非営利活動法人世界健康フロンティア研究会(本部・兵庫県西宮市)の「世界健康フォーラム・モナリザ賞」を受賞した。大豆成分が女性アスリートの健康状態に及ぼす効果に着目した研究テーマが高く評価された。同部の工藤祐太郎監督は「受賞を機に大学として研究への思いを新たにし、部の競技力向上にもつなげたい」と話した。



11月29日の世界健康フォーラムで表彰を受けた八学大女子ラグビー部の関係者ら。左から田端副主将、家森理事長、山田選手、栗谷川フードコーチ、工藤監督(同部提供)

同研究会(理事長・家森幸男武庫川女子大学国際健康開発研究所長)は、予防を含む健康科学を推進しており、啓発活動として同フォーラムを毎年開催。同賞を健康科学に取り組む若手研究者らに贈っている。同賞は3回目で、本県関係の受賞は初。今年11月29日の同フォーラム(京都市)で授賞式が行われ、工藤監督と田端ひかる副主将(2年)、山田優希美選手(1年)らが出席した。

同部は8月、同社と連携協力協定を締結。同社は豆腐などの大豆製品を同部に提供し、部員は学生寮での食事で積極的に大豆製品を摂取している。吉田総部長によると、大豆イソフラボンなどが女子選手の筋肉量や体脂肪、骨密度などに及ぼす変化、月経周期の安定などへの影響を24時間の尿

内物質検査などを通して女子ラグビー部員が検証。普通食を摂取する同大の他の運動部員と比較し、来年の同フォーラムで発表する。家森理事長は取材に「若い女性が積極的に大豆を取り、運動するとうなるのかを調べる画期的研究。大豆が多い日本食の優位性の証明につながる」と評価。

同社の工藤茂雄代表取締役社長も「大豆イソフラボンの健康効果の証明に弊社の食品が役立つ」と喜んだ。提供された大豆製品を用いた食事を研究、部員に提供する同部の栗谷川柳子フードコーチは「応用が利き飽きさせない料理ができるのが豆腐の優れた点。さらに研究を重ねる」。健康医療学部で学ぶ田端副主将は「女性アスリートが抱える体の問題は少なくない。解決策と大豆イソフラボンの関係を明確にし、成果を上げたい」と意気込んだ。